

第二條 矯正師善ノ爲懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齢ハ滿八歳以上滿二十歳以下ヲ限リトス

第三條 在場ノ期限ハ六ヶ月ヲ一期トシテ二ケ年ヲ限リトス

第四條 懲治入場中其行狀ヲ試ミル爲宅舎ニ滯住セント欲スルハ

〔第二號書〕入場ノ監獄署ヘ願出ヘシ

第五條 出場セシメントスルハ其入場ヲ願ヒシ尊屬親及ヒ其連署

セシ親戚並ニ戸長ノ連署縣令ヘ宛タル書面ヲ以テ〔第三號書〕入場ノ監

獄署ヘ願出ヘシ

其願主死去又ハ故障アルキハ他ノ尊屬親之ニ代リ願出ルヲ得

第六條 入場中ノ衣食費ハ其尊屬親ヨリ每月末入場ノ監獄署ヘ上納

スヘシ

(第壹號)

懲治入場願

長崎縣何區何町何番戶住

士族又ハ何ノ某幾男

何ノ誰

何年何月何日誕生

當何年何月齡何年何ヶ月

右ノ者私ノ教令ニ違背シ又ハ己ニ御處刑ヲ受ケ候身分猶改心セス此上如何様ノ所業相働キ候哉モ難計候間爲

矯正師善懲治入場爲致度候條願之通御許可被下度此段親戚連署ヲ以

テ奉願候也

長崎縣何區何町何番戶住士族同人父平民

願主何ノ誰印

右親戚何ノ誰印

右親戚何ノ誰印

右戸長

何ノ誰印

長崎縣令宛

(第貳號)

懲治人假出場願

長崎縣何區何町何番戶住
士族又ハ何ノ某幾男

何ノ誰

何年何月何日誕生

當何年何月齡何年何月

右ノ者爲矯正歸善何年何月何日懲治入場爲致置候處現今ノ行狀試察
ノ爲私宅へ滯住仕度候間何日問出場被成下度此段奉願候也

長崎縣何區何町何番戶住
士族同人兄

願主何ノ誰印

同親戚何ノ誰印

右戶長

何ノ誰印

監獄署長宛

(第三號)

懲治出場願

長崎縣何區何町何番戶住
士族又ハ何ノ某幾男

何ノ誰

何年何月何日誕生

當何年何月齡何年何月

右ノ者私ノ教令ニ違背シ又ハ己ニ御
處刑ヲ蒙リ候身分猶改心セス此上如何様ノ處業相働キ候哉モ難計候間爲

矯正歸善何年何月何日懲治入場爲致置候處目下悔悟ノ体相顯ハシ候

様存候間何卒出場身柄御引渡被下度此段親戚連署ヲ以奉願候也

長崎縣何區何町何番戶住
士族同人兄

願主何ノ誰印

同

親戚何ノ誰印

同

親戚何ノ誰印

右戶長

何ノ離印

長崎縣令宛

第二節 監第一三號 明治十五年三月八日各監獄署へ達

明治十二年(四月)回第七拾三號達懲治入檻并出檻取扱心得別紙ノ通改正
候條此旨相達候事

(別紙)

懲治場入出取扱心得

第一條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正婦善セシメント其尊屬親

ヨリ願出ル者アルハ其事情ヲ精密取調或ハ所轄警察署ニ照會シ

見込ヲ付シ差出スヘシ

第二條 入場ノ者本然ノ性ニ歸シ悔悟ノ体相願フ若クハ滿二年ニ至

レハ願主ニ身柄引渡ノ上其旨届出スヘシ

第三條 出場願出ルルハ事實ヲ精確取調不都合ナキ者ハ將來ヲ嚴戒

シ受書ヲ取リ身柄交付シ其旨届出ヘシ

第四條 入場中ノ衣食費ハ每月末願主ニ示達シ上納セシムヘシ

第五條 赤貧ニシテ入場中ノ衣食費自辨難致監獄費支辨願出ルルハ

係戸長ノ保証ヲ要シ尙事實ヲ審查シ見込ヲ付シ差出スヘシ

第六條 入場中懲治人ノ行狀ヲ試ミル爲メ願主ヨリ宅舎ニ滞在セン

ト請フルハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二百九十四款 刑期計算ニ關スル事項

第一節 監第二〇號 明治十五年三月廿七日各監獄署三池懲役場へ達

己決囚犯罪事件ニ附帶スル私訴又ハ通常民事其他訴訟關係ノ爲法官ノ

召喚ニ依リ欠役スル日數ハ限内へ算入候儀ト可相心得此旨相達候事

但本文ニ牴觸スル從前ノ伺指令ハ取消候事

第二節 警第三二號 明治十七年三月廿六日監獄本署へ達

古物商取締條例第十八條ニ依リ警察官ニ於テ留置ノ末罰金ヲ納完スル

能ハサルニヨリ禁錮ニ換ヘタル節其期限起算方ノ義ニ付別紙寫ノ通り

參事院ノ説明有之趣キヲ以テ其筋ヨリ申來候間爲心得此旨相達候事

明治十七年二月九日内務卿ヨリ参事院議長へ問合
 客年第五十號公布古物商取締條例第十八條特別取締ニ付セラレタル
 者罰金完納セサルハ留置處分ノ儀ハ刑法上罰金ヲ禁錮ニ換フルモノ
 トハ其性質ヲ異ニシ畢竟本犯ノ逃走ヲ防キ且ツ罰金ヲ出サシムルノ
 方法ナレハ之ヲ留置スルト否トハ其品行貧富等ニ因テ處分ヲ異ニセ
 サル可ラス是等實際ノ情况ヲ監査スルハ警察官ニアラサレハ分明難
 致ニ付無論行政ノ處分ト心得可然哉至急御説明有之度及御質問候也
 明治十七年二月十八日参事院議長回答
 本月九日付質問古物商取締條例第十八條ノ件ハ見解ノ通り
 明治十七年一月二十一日内務卿ヨリ参事院議長へ問合
 客年第五十號公布古物商取締條例第十八條罰金ニ處セラレタルハ
 直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラル、コトアルヘシ
 トハ言渡後直ニ納完シ能ハサル場合其納完スル迄ノ間本犯ヲ留置
 スルコアルヘシトノ義歟果シテ然ラハ若シ罰金ヲ納完シ得サル者ハ

刑法第廿七條ノ例ニ照ラシ輕禁錮ニ換へ其留置中ノ日數ハ禁錮期限
 内ニ算入セサル義歟右及御質問候至急御説明有之度候也
 明治十七年二月十八日参事院議長回答
 去月廿一日付質問古物商取締條例ノ件ハ其見解ノ通り

第三節 監第七號

明治十七年五月十三日原支廳監獄本署
各監獄支署(原支除ク)へ達

賭博犯懲罰人及賣淫苦使人受罰中別罪發覺ノ爲メ更ニ未決監ニ移シテ
 ルル其日數ハ受罰限内ニ算入可致儀ト心得ヘシ此旨相達候事

第二百九十五款 出入監者ニ關スル事項

第一節 監第二八號

明治十五年四月十三日各監獄署三池懲役場へ達

刑期滿限放免及ヒ在監人書信通達方是迄區々相成不都合ニ付自今放免
 ノ者管外ハ郡區役所管内ハ戶長へ通知シ書信ハ其届先キへ直送候様可
 致此旨相達候事

第二節 監第三〇號

明治十八年十二月廿五日監獄本署へ達

大村治安裁判所ニ於テ開ク長崎輕罪裁判所ニ於テ宣告相成タル重禁錮
以上ノ者其裁判確定ノ上ハ其署へ集收スヘシ此旨相達候事

(明治十九年一月回第五號ヲ以テ賭博犯懲罰入密賣溜苦使人ニ於テモ全條
取扱フヘキ旨ヲ達ス)

第三節 達監第三二二號

明治十九年六月一日般原支廳監獄本署へ達

出入監者取扱手續別紙ノ通相定ム

(別紙)

出入監者取扱手續

第一條 新ニ入監スルモノアルハ書記押送官へ面接シ令狀若クハ
處刑宣告書等ノ文書ヲ受取り典獄ノ査閲ヲ請ヒ入監者ノ住居氏名
罪質刑名等ヲ入監人名簿ニ登記シ身柄領収ノ證書ヲ作り書類ト共
ニ看守長へ交付スヘシ
但押送官ヨリ交付ノ金品アルハ書記押送官ノ面前ニテ目錄ニ
照ラシ之レヲ點檢シ領收ノ證書ヲ交付スヘシ
第二條 看守長ハ書類ニ照ラシテ身柄ヲ受取り令狀ノ正本並領收証

ヲ押送官へ交付シ看守ヲシテ入監者ヲ調所ニ引カシムヘシ
第三條 典獄調所ニ臨ミ書記及看守長陪席シ典獄入監者ノ氏名族籍
職業年齢罪質等書類ニ照査シ入監スヘキ旨ヲ言渡シ書記ヲシテ監
獄則第九十五條揭示ノ條款ヲ讀聞カスヘシ
第四條 書記ハ未決名籍ヲ錄取シ且携有金員ヲ詳査シ寄托金品錄ニ
登記シ其員數ノ合計ニ入監者ヲシテ調印若クハ拇印セシメ典獄ノ
証印ヲ受クヘシ
第五條 各裁判所ヨリ在監人ヲ召喚セシトキハ看守長其召喚簿若ク
ハ照會文書ニ依リ其氏名ヲ押送簿ニ騰寫シ典獄ノ檢閲ヲ請ヒ看守
ヲシテ押送簿ニ照ラシ氏名ヲ喚ハシメ看守長召喚ノ旨ヲ言渡シ押
送セシムヘシ
但歸監ノトキハ看守ヲシテ押送簿ニ照ラシ氏名ヲ喚ヒ人員ヲ調
査セシムヘシ
第六條 在監人ヲ他監へ押送スルトキハ典獄調所ニ臨ミ書記看守長
陪席シ典獄押送スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第七條 書記ハ押送囚ニ關スル書類物件ヲ取極メ護送者ニ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 裁判確定ノ者ヲ已決監ニ移ストキハ典獄調所ニ臨ミ書記看守長陪席シ典獄刑ノ執行ヲ言渡シ且改過遷善ノモノ其他奇特ノ行爲アルモノハ特赦若シハ假出獄ノ恩典ニモ處セラルヘキ旨ヲ說示スヘシ其裁判確定ノ上直ニ入監スルモノ亦全シ

第九條 書記ハ已決名籍ヲ錄取シ尋テ看守長ハ身柄ヲ已決監ニ護送セシムヘシ

第十條 主刑滿限尋テ付加罰金換刑又ハ懲罰若使等執行スルトキハ典獄調所ニ臨ミ書記看守長陪席シ典獄其執行ヲ言渡スヘシ

第十一條 刑期滿限放免ノ者アルトキハ典獄調所ニ臨ミ書記看守長陪席シ典獄放免ヲ言渡シ且將來心得方善良ニシテ營業ノ途ニ就クヘキ旨ヲ說示スヘシ

但付加刑監視アルモノハ警察署ニ引渡スヘキ旨ヲ言渡スヘシ
第十二條 未決者ノ免訴又ハ無罪放免等アリタルトキハ前條ノ手續

ニ準シ取扱フヘシ

第十三條 書記ハ放免者ニ携有金品及工錢ヲ下付シ寄托金品錄ニ記名且調印若シハ拇印セシムヘシ

第二百九十六款 若使取扱ニ關スル事項

第一節 監第六〇號 明治十五年十二月廿二日各監獄署ニ達

若使取扱規則左ノ通改正候條此旨相達候事

若使取扱規則

第一條 賣淫犯則ニ依リ若使實決ノ者警察官ヨリ送付シ來ラハ罰文ニ照シ身柄受取所持品アラハ之ニ領置シ而シテ獄則遵守スヘキ旨懇篤之ヲ示シ既決監ニ入レ罪囚ト別異シ適宜役ニ服セシム

第二條 得ル處ノ工錢ヲ以テ食費及藥價等悉皆ノ費用ニ充テ剩リアラハ領置シ本人滿期ノ節之ヲ付與シ不足アラハ別段請求スヘシ但毎月費用及ヒ工錢決算表ヲ製シ本署ニ報告スヘシ

第三條 服役中病ニ罹リ癩篤疾ニシテ服役ノ見込ナキモノハ醫ノ診斷書ニ依リ宥免スル事ヲ得

但其時々原警察署ニ通知スヘシ

第四條 服役中祖父母老疾ニテ家ニ待養ノ子孫ナク養親願出ルモノアルキハ取糺シ事實相違ナキニ於テハ留養セシムルヲ得

但本文ノ場合ニ於テハ原警察署ト協議ノ上處分スヘシ

第五條 婦女三歳未満ノ乳兒アリテ養育スヘキ親戚ナク母子共入場願出事實不得止モノハ之ヲ聽ス

但該兒ノ費用ハ其母工錢ヲ以テ之ヲ補ヒ其他第二條ニ全シ

第六條 服役中病ニ罹リ未ク癩疾ニ至ラスト雖モ重病ニシテ監内治療難行届モノ及ヒ懐妊臨月等ノモノハ親戚ニ責付シ全快ノ上償役セシム

第七條 苦使實決ノ者ハ男子ト雖モ内役ニ服セシメ外役スル事ヲ聽カス

第八條 服役中本律ノ處刑ヲ受ケシモノハ滿期ノ上殘日數苦使セシ

第九條 服役中親戚等ヨリ書信或ハ面會及ヒ差入物等出願スルモノハ既決囚ノ例ニ準シ許容スヘシ

但衣服ハ既決囚ノ例ニ依ラス適宜之ヲ許容ス

第十條 滿期放免ノモノハ所持品及ヒ工錢ノ殘餘アラハ下付シ再ヒ犯則セサル様懇篤之ヲ欲示シ放免スヘシ

第十一條 逃走ヲ企テ或ハ獄則ヲ犯スモノハ監獄則第七條未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケル者ノ例ニ依リ之ヲ罰ス

第十二條 處罰ノ者改悛ノ情著ルルキハ之ヲ免スルヲ得

第二百九十七款 監視ニ關スル事項

第一節 監第三一號

明治十七年七月十六日嚴原支廳監獄本署各監獄支署(嚴原ヲ除ク)へ達

監視ニ付スヘキ者取扱方ノ儀ニ付別紙乾警第二八四號ノ通共筋ヨリ訓示相成候條向後右訓示ノ通可取討此旨相達候事

(別紙)

乾警第二八四號 明治十七年六月二十八日縣令宛内務卿

監視ニ付スヘキモノ住居又ハ引取人等ハ本人ノ申立ニ據ルト雖モ其申立相違或ハ詐欺ニ出ルモノ往々有之執行上差支不少趣就テハ申立疑ハシキモノト認ムルニ於テハ典獄ヨリ豫メ該地戸長ヘ照會シ主刑滿期ノ時其回答書ヲ添ヘ護送セシメ候様可取計此旨訓示候也

第二節 甲第九〇號 明治十七年七月廿八日

監視ニ付セラルヘキ者ヲ引取ラントスルモ主刑滿期數日前戸長長崎區八區長與書ノ書面ヲ以テ所轄監獄本支署ヘ出願スヘシ此旨布達候事

第二百九十八款 在監人報告ニ關スル事項

第一節 監第三九號

明治十七年九月廿二日嚴原支廳監獄本署各監獄支署嚴原ヲ除クヘ達

在監人出入表并患者表別紙ノ通り相定候條此旨相達候事

(別紙)

明治二十年五月
監第六一
號ニテ在監
二號ニテ在監
月出入表改正
人出入表改正

患者表記載例

- 一本表ハ醫員ニ於テ製スルモノトス
- 但未決已決ハ各別表ニ製スヘシ
- 一本表ハ專ラ十六年内務省乙第四十八號達監獄經理表ノ材料ニ充ツ而シテ病變死及ヒ逃走押走轉出放免等ハ轉歸ノ目ニ記シ摘要中ヘ詳記スヘシ
- 一本表ハ數字ヲ用ヒ横行ニ配スルヲ式トス數ニ零位アルモ小圈ヲ置クヘシ
- 一各項目中記載スヘキ件ナキモハ圈點〇ヲ記シ誤脱ニ非ルヲ表スヘシ

第二節 達監第一二〇三號 明治十九年十二月十日監獄課へ達
 在監人區別別紙雜形ニ照準シ毎月七日限取調各監獄ヨリ管轄裁判所(輕
 罪本支廳及治安廳)ノ檢察官へ差出スヘシ
 但本年八月ヨリ十一月分モ製表此際差出スヘシ

(別紙)

明治 月年 縣 監獄在權人表 監獄署

合計	區分		入	出	監
	男	女			
			越員		
			監新入		
			監轉入		
			監再入		
			計		
			執行		
			放免		
			實保		
			附釋		
			轉他		
			監縣		
			轉監		
			死亡		
			逃亡		
			計		
			現員		
			八月一		
			日延		
			病氣		

刑名	區分		入	出	監
	男	女			
重懲役					
流刑					
徒刑					
死刑					
刑名					
越員					
監新入					
監轉入					
監再入					
計					
放免					
滿期					
轉他					
監縣					
轉監					
未決					
移獄					
特出					
逃亡					
死亡					
刑死					
病死					
死					
計					
現員					
八月一					
日延					
病氣					
就役					
不就					

既決囚犯數區分ノ部

罪名區分		犯數區分		越人員	新入監人員	計	新入監人員ノ内				
		女	男				初犯	再犯	三犯	四犯以上	
女	男										
女	男										
女	男										
女	男										
女	男										
女	男										
女	男										
女	男										
女	男										
女	男										

第二百九十九款 患者施療ニ關スル事項

【第一節】監第三號 明治十八年一月十三日監獄本署長崎病院へ送

監獄本署在監人患者施療概則別紙ノ通改定候條此旨相達候事

(別紙)

監獄本署在監人患者施療概則

第一條 在監人患者治療ハ長崎病院ニテ擔任スベキニ付教師院長ヲ始メ其治療ニ關スベキハ勿論ナリト雖擔當醫二人(内一人)ト定メ日々監獄署ニ出勤診察施療スベシ
但勤務ノ時限ハ典獄ニ於テ之ヲ定ム

第二條 擔當醫ヲ定ムト雖モ重病危篤等ノモノヲテハ教師若シハ院長診察施療スル勿論タルヘシ

第三條 院長ハ時々臨監シテ施療上ノ當否ヲ監視スルモノトス
第四條 擔當醫ハ患者表其他患者ニ關スル一切ノ記録等ヲ調製スヘシ

キモノトス

第五條 急病變死等急速ヲ要スル場合ニ於テハ擔當醫ハ勿論病院宿直醫ト雖モ監獄署ノ通知ニヨリ往診スヘシ

但擔當醫ハ宿所番地等豫テ監獄署ヘ届置其勤務時限外ト雖可成在宿シ急報ニ應スヘシ

第六條 監獄署内ニハ醫員詰所ヲ設置シ日常ノ藥種配劑器治療器械等ハ便宜病院ヨリ備置シヘシ

第七條 日常施療上ニ要スル物品（繻織糸木綿繻帶 藥瓶等ノ類）ハ監獄署ヨリ購求相渡スヘキモノトス

第八條 擔當醫ハ時宜ニヨリ典獄ノ指揮ヲ受ケ監獄署ニ宿直スヘシ此場合ニ於テ病院ハ更ニ醫員一人ヲ出スヘシ

但傳染病等流行ニ際シ數十日宿直ヲ要スル場合ニ於テハ典獄院長協議伺ヲ經ヘシ

第九條 擔當醫出勤中ハ諸事典獄ノ指揮ヲ受シヘキモノトス
第十條 藥價ハ每月末監獄署ヨリ病院ヘ交付スヘシ

第十一條 監獄署ハ一ヶ月三十圓以内診察料トシテ毎月末病院ヘ交付スヘシ

但其額ヲ定メ及増減スルハ典獄院長協議伺ヲ經ヘシ

第三百款 遞送護送ニ關スル事項

第一節 監第三一號 明治十八年十二月廿五日警察本署監獄本署ヘ達

大村治安裁判所ニ於テ開シ長崎輕罪裁判所ニ所テ宣告相成タル重禁錮以上ノ者其裁判確定ノ上監獄本署ヘ集収スルニ付テハ當分ノ内警察傳遞ヲ以テ護送スヘシ此旨相達候事

（明治十九年一月回第五號ヲ以テ賭博犯懲罰人密賣淫苦使人ニ於テモ全條取扱ヘキ旨ヲ達ス）

第二節 回第二四號 明治十九年一月廿八日嚴原支廳警察本署監獄本署ヘ達

囚徒遞傳護送途中ハ注意取締ヲ爲スハ勿論ニ候得共其囚徒ニ依リ注意ヲ異ニスル者モ有之ニ付自今左ノ通心得ヘシ此旨相達候事

一囚徒 新タニ就縛セシ犯罪人及諸令狀ニ依リ引致スル刑事被告人モ亦同シ 遞傳護送ニ付囚徒獲送ノ警察署ニ於テハ其囚徒ノ伎倆來歴即チ強氣腕力アルカ又ハ逃走ニ妙ヲ得タル者等荷モ護送者ニ於テ注意上必要ト爲ルヘキモノハ傳遞狀ニ付記スヘシ但護送者ニ於テ護送中他ニ異狀ヲ認メタル時モ其旨付記スルモノトス

一監獄署ニ於テ遞傳護送ノ囚徒ヲ警察署ニ送致スルキハ前條ノ事項無疎漏記載シ其警察署ニ通知スヘシ

第三百一欸 工錢ニ關スル事項

第一節 監第九號 明治十九年三月十五日殿原支廳監獄本署へ達

監獄則第五十三條在監人ニ與フヘキ工錢ノ義モ預ケ金規則第一條第二項ニ屬スヘキニ付成規ニ據リ國庫金取扱所又ハ該出張場へ預ケ入可取計此旨相達候事

第五十五章 國庫歲入出之部

第三百二欸 歲出入ニ關スル事項

第一節 乙第一四八號 明治十五年十一月二日郡區役所へ達

郡區長以下罰俸金其他送納期限左ノ通相定候條此旨相達候事

一郡區長以下罰俸金其他不用品拂代 仕譯表一同 翌月十日限

一地券書損反古拂代金

一堤塘使用料 半年分取纏仕譯表一同 前半年分ハ四月十日限 後半年分ハ十月十日限

一官地拜借料

第二節 布達第四號 明治十九年四月十四日

歲入歲出々納規則制定セラレ候ニ付テハ右ニ關シ心得ヘキ事項左ノ如

第一條 納入ト稱スルハ戶長各納稅者其他政府ニ對シ仕拂ノ義務ヲ有スル者ヲ云フ

第二條 受取人ト稱スルハ官吏會社一私人ノ別ナク總テ政府ヨリ仕

第四十九欸第一節明治十五年十二月乙第一六九號參照

明治十八年四月乙第六二號三期改正ニテ三項差出

拂テ受クヘキ權利ヲ有スル者ヲ云フ

第三條 金庫ト稱スルハ大藏省金庫局其出張所及國庫金取扱所若クハ現金支拂所ヲ云フ

第四條 歳入歳出ノ現金ハ金庫ニ於テ直ニ收納支出ス

第五條 金庫ノ出納ハ大藏大臣ノ定メテシタル開庫時間ニ限ル

第六條 租稅關稅地方ノ稅ヲ除ク徵收ハ徵稅令書ヲ戶長若クハ各納稅者ニ對シ

郡區長之ヲ發ス

第七條 戶長ニ於テ徵稅令書ヲ受ケルキハ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發ス

第八條 關稅及稅關收入ノ徵收ハ納額告知書ヲ各納人ニ對シ稅關長之ヲ發ス

第九條 租稅外稅關ノ諸收スヲ除ク收入ノ徵收ハ納額告知書ヲ各納人ニ對シ會計

主務官之ヲ發ス

第十條 現金ヲ金庫ニ納付スルトキハ同時ニ上納書接續ノ儘徵稅令書若クハ納額告知書ヲ持參シ之ニ領收ノ證ヲ受クヘシ

第十一條 關稅及稅關ノ諸收入ハ金庫ノ預リ證書ヲ以テ稅關ヘ納付スヘシ

第十二條 仕拂ハ仕拂切符ヲ各受取人ニ對シ會計主務官之ヲ發ス

第十三條 仕拂切符ノ仕拂期限ハ振出ノ日ヨリ滿九十日ヲ超ユヘカラス

第三節 布達第九號 明治十九年四月廿九日

本年(四月)布達第四號第九條租稅外稅關ノ諸收スヲ除ク收入ニシテ納人數多アリ其組合代理ヲ撰ミ之ニ委託シ納金ヲサントスルモノハ代理納人ニ對シ納額ヲ集計シタル納額告知書相渡候條所管郡區役所ヲ經其旨豫テ届出ツヘシ

第五十六章 官費ニ係ル證書ノ部

第三百三款 證書類調理ニ關スル事項

第一節 丙會第二九八號

明治十八年三月十八日會計主務官ヨリ
支廳會計主務官各郡區長典獄ヘ申進

證書類調理方ノ義ニ付今般會計検査院審査第一部長検査官長岡義之ヨ
リ證書調理方細則被申越候ニ付寫ヲ以テ及御回候條官費ニ係ル分ハ都
テ該細則ニ準據御取扱相成度此段申進候也

追テ證書金員ハ必ス壹貳拾ノ文字ヲ認メ可申處往々一二十廿等ノ略
字ヲ認メ公達ニ違觸不都合ニ有之候間精々御注意相成候様致度候且
ツ徴兵旅費其他都テ算出ニ係ルモノハ本人受領書ニ詳細記載可致義
ニ付此段爲念申添候也

(但典獄ヘハ道書且以下除ケ)

送第六四號 明治十八年二月十七日會計主務宛検査第二部長

證書調理方ノ義ハ十六年九月中本院長ヨリ其順序通達相成居候處尙
其細例ニ至リ各處詳略區々ニ涉リ候テハ徒ラニ應答ノ手數ヲ費シ隨

テ検査完結ノ期ヲ遅延スヘキ恐ナキニ非ラズ依テ便宜ノ爲メ其要ス
ル處ノ主點ヲ別紙ニ概舉シ爲念及回送候條十六年度以降右ニ準據
實際ノ宜シキテ參酌シ調理方詳備候様御注意有之度此段申進候也

(別紙)

證書調理方細則

- 一 領收證書ハ課名若クハ總代名等ヲ以テスルヲ得ス但代人ヲ以テス
ルモノハ其事由ヲ具記スヘシ
- 一 證書中金員ノ塗抹ヲ禁ス若シ誤脱等アルトキハ朱字ヲ以テ更正シ
之ニ正當領收人ノ証印ヲ捺セシムルモノトス
- 一 證書ノ内譯ハ總テ別紙ニ製シ添付スルモ妨ナシ
- 一 官員履給仕小使等ノ如キ毎月俸給ヲ受クル者ハ一人別十二ヶ月分
ホ一紙ノ受取ニ製スルモ妨ナシ又數名分ヲ一ヶ月一紙ニ製スルモ
妨ナシ辨當料筆墨料等ノ如キモ亦之ニ準ス
- 一 證書ノ内譯其算出等ニ係ルモノハ左ノ概要ヲ準則トシ事由ヲ詳記
スルヲ要ス

- 一 他方出張ノ者規則ニ據リ月俸繰上ケ渡テ爲シタル分ハ其事由ヲ詳記スルモノトス
- 一 昇降等新任轉免ノ類ハ拜命ノ月日又四ヶ月以上病氣引及ヒ歸省ノ類ハ其起終ノ月日ヲ詳記スルモノトス但日給者モ亦本文ニ準シ且其日常欠勤ノ日數ヲモ詳記スヘシ
- 一 御用掛雇ノ者旅費ニ付テハ十六年十二月以前ハ其月俸高ヲ詳記シ十七年一月以降ハ準任即チ身分取扱ヲ詳記スルモノトス
- 一 旅費証書ハ發着經過ノ各地及里程等詳記スルハ勿論巡回中此地ヨリ彼ノ地ニ移ル並旅行ト相跨ルモノト如キハ其巡回轉地ノ各日數里程等判然之ヲ區別シ記載スルモノトス
- 一 滿年賜金及ヒ退官一時賜金証書内譯コハ其履歷ノ詳記ヲ要ス尤履歷書ハ別紙トナシ添付スルモ妨ナシ
- 一 御用掛雇ノ者慰勞手當等ヲ支給セシ者ハ必其月俸額ヲ記載スルモノトス
- 一 爲換手數料ハ拾里毎ノ支給金額及ヒ里程等ヲ詳記スルヲ要ス

- 一 物品ハ總テ每品ノ個數斤量代價等ノ詳記ヲ要ス其一個當リヲ以テ購入セシモノハ其代價ヲ記載スルモノトス
- 一 鑑札代ノ如キ使用ニ依リ費途ノ區別アルモノハ各其鑑札名ヲ區別詳記スルモノトス
- 一 新聞紙代ノ如キ前金拂ノモノハ何年月分ヨリ何年月分アルヲ詳記スルモノトス
- 一 薪炭ノ如キハ其貫目蠟燭ノ如キハ其斤量ヲ詳記スルモノトス
- 一 印刷費ハ其各印刷品名ト各部數トヲ詳記スルモノトス
- 一 運搬費ノ如キハ其運搬ノ品目數量里程ヲ詳記スルモノトス
- 一 接待費ノ如キハ其接待セシ事由ヲ詳記スルモノトス
- 一 樂兒養育米代及ヒ窮民恤救米代等ハ必前月下米壹石ノ代價ヲ記載スルモノトス
- 一 盜賊捕獲ニ尽力セシ賞譽ノ内拒捕ノ強盜捕獲ノ者ハ必其拒捕云々ヲ明記スルモノトス
- 一 諸印紙類賣捌手數料ハ各印紙拂下代價及ヒ其前後納テ區別記載ス

ルモノトス

- 一 徵兵醫員旅費ニハ必其等級ヲ記載スルモノトス
- 一 徵兵人員ニ據リテ個數ヲ定ムル物品ニハ各地徵兵署又ハ検査所徵兵ノ人員ヲ各自ニ記載スルモノトス
- 一 徵兵検査日數ニ據リテ斤量等ヲ定ムル物品ニハ各所検査日數ヲ各自ニ記載スルモノトス
- 一 徵兵使ノ要求ニ依リ全費中定品外ノ物品又ハ定額外多數ノ物品ヲ購入セルキハ其証票ヲ各証書ニ添付スルモノトス
- 一 招魂社費中墳墓修繕費ノ如キハ其箇所ヲ區別記載スルモノトス
- 一 道路橋梁等ノ實測ニ屬スル費用ノ如キ官費地方費ノ區別アルモノハ其官費ヲ以テ支辨スヘキ事由ヲ記載スルヲ要ス
- 一 營繕土木費ノ請負ニ係ルモノハ其仕様精算帳ヲ添付スルモノトス

第五十七章 公債之部

第三百四款 公債証書買賣讓渡願届ニ關スル事項

第一節 乙第三七號 明治十二年一月廿七日郡區ニ達

金錄公債証書買上願讓渡檢印願共向後加印ニ及ハス本人ヨリ直ニ當廳ニ可差出義ト可相心得此旨相達候事

第二節 乙第一九一號 明治十二年七月一日郡區ニ達

金錄公債証書下賜ノ内幼主ノ者不得止事情有之向後該証書ヲ賣却候節ハ後見人及親戚熟識ノ上連署ヲ以檢印願差出スヘシ尤モ証書欄内記名糊印ノ義ハ左ノ書式ニ倣ヒ可相認段右所有主ニ相達ヘシ此旨相達候事

書式

幼主姓名後見人

何ノ某印

第三節 甲第七八號 明治十六年九月廿七日

諸公債証書讓渡又ハ賣渡ノ儀後見人ヨリ届出候節ハ其書面ニ親族連署

郡區戶長ノ與印ヲ受ケ差出スヘシ此旨亦達候事

第三百五款 記名公債證書元利支拂ニ關スル事項

第一節 長崎縣令第二五號 明治十九年九月廿一日

本年七月八日付大藏省令第廿四號ニ依リ諸記名公債證書元利賦金本年十一月以降總テ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ支拂方取扱候條左ノ通心得ヘシ

諸記名公債元利賦金支拂方ニ係ル届出順序

第一條 諸記名公債證書取扱店元利賦金受取場所ヲ指定シ其ノ届書及證書所有者ノ印鑑別紙書式ニ依リ來ル十月十日迄戶長戶長ナキハ區長ノ保証ヲ得テ上下縣郡ハ對馬島廳ヲ經其他ハ郡區役所ヲ經テ本廳ヘ届出ヘシ

第二條 日本銀行代理事務取扱所ハ長崎第十八國立銀行并ニ同行嚴原出張所ノ兩所ニ候條該店ヘハ證書所有者ノ印鑑戶長ノ保証ヲ得テ來ル十月十五日迄差出ヘシ

第三條 第一條第二條ニ依リ届出タル後ヲ取扱店ヲ變換スルカ又ハ改姓名代換リ改印并ニ新ニ公債ヲ讓受買受タルモノハ其ノ時々届出スヘシ

但第一條第二條ニ依リ印鑑届出ノ後證書讓受買受タルモノハ印鑑差出スニ不及

(別紙)

金錄公債ハ甲乙丙丁チ區分別紙ニ記スヘシ

何郡區何町士換平民

一 何公債證書何千圓

印鑑 何 某 印

右印鑑保証ス

右區長戶長

年 月 日 何 某 印

何郡區何町士換平民

曲尺六寸五分

第五十八章 貸下金之部

第三百六款 貸下金ニ關スル事項

第一節 乙第一三七號 明治九年六月廿六日各區々戸長へ達
借下金貸下ケ金年賦返納スヘキ者一時上納願出候節別紙壹割利引算則
ヲ以取立返納可取計尤其算法ハ紙末ニ相示シ候條熟考注意可致此旨相
達候事

但通常貸下ケ及風災小屋掛料貸渡返納金等ハ此例ニアラス

(別紙)

一割利引千圓年率

- 一 利金九拾圓九拾錢九厘
- 二 百三拾貳圓貳拾三錢壹厘
- 三 百七拾壹圓四錢九厘
- 四 貳百七圓五拾三錢四厘
- 五 貳百四拾壹圓八拾四錢三厘

- 六 貳百七拾四圓拾貳錢三厘
- 七 三百四圓五拾壹錢貳厘
- 八 三百三拾三圓拾三錢四厘
- 九 三百六拾圓拾錢八厘
- 十 三百八拾五圓五拾四錢三厘
- 十一 四百九圓五拾四錢
- 十二 四百三拾貳圓拾九錢貳厘
- 十三 四百五拾三圓五拾八錢八厘
- 十四 四百七拾三圓八拾錢八厘
- 十五 四百九拾二圓九拾貳錢八厘
- 十六 五百拾壹圓壹錢八厘
- 十七 五百貳拾八圓拾四錢四厘
- 十八 五百四拾四圓三拾六錢六厘
- 十九 五百五拾九圓七拾四錢壹厘
- 廿 五百七拾四圓三拾貳錢貳厘

廿一年	五百八拾八圓拾五錢七厘
廿二年	六百壹圓貳拾九錢四厘
廿三年	六百拾三圓七拾七錢三厘
廿四年	六百貳拾五圓六拾三錢六厘
廿五年	六百三拾六圓九拾壹錢八厘
廿六年	六百四拾七圓六拾五錢六厘
廿七年	六百五拾七圓八拾八錢壹厘
廿八年	六百六拾七圓六拾貳錢三厘
廿九年	六百七拾六圓九拾壹錢
三十年	六百八拾五圓七拾七錢
三十一年	六百九拾四圓貳拾貳錢五厘
三十二年	七百貳圓三拾錢壹厘
三十三年	七百拾圓壹錢七厘
三十四年	七百拾七圓三拾九錢五厘
三十五年	七百貳拾四圓四拾五錢三厘

三十六年	七百三拾壹圓貳拾錢八厘
三十七年	七百三拾七圓六拾七錢八厘
三十八年	七百四拾三圓八拾七錢八厘
三十九年	七百四拾九圓八拾貳錢貳厘

金拾圓納濟殘金九拾圓一時上納願出候節ハ右九拾圓ノ内ヨリ引去殘乘シ利引金四拾八圓九拾九錢三厘ヲ得ル右九拾圓ノ内ヨリ引去殘高四拾一圓七厘ヲ以テ上納金ト定ムヘシ

又金百五拾圓ヲ五十年賦ニ返納スヘキ者一時上納願出候節ハ高金百五拾圓ノ内ヨリ引去殘金廿九圓七拾四錢四厘ヲ以テ上納金ト定ルヘ前ノ如シ

皆準之

第二節 乙第一九六號

明治十八年十二月八日股原支廳那區役所へ達

貸下金其他諸上納金未納ノ者失踪ノ節証書ノ裏書ヲ郵便等ヲ以テ請求セシ場合ニ於テ其裏書ヲ爲シタル証書ヲ裁判所ヨリ返付スルノ費用ハ

之ヲ請求シタル各廳ノ支辨ニ屬スル儀ト心得ヘシ此旨相違候事

第三節 丙會第二六二號 明治十九年三月九日各郡區長ヘ内達

舊藩貸ヲ除キ六種貸附金并ニ舊小野島田兩組貸附金共既約ノ年月賦ヲ以壹割利引返納方願出ル者ハ可及詮議候條精々説諭ヲ加ヘ一時返納方出願致サスヘシ此旨内達候事

但既約年限五十年以上ニ涉ルモノハ五十ヶ年迄取縮候義ト可相心得事

(明治十九年三月丙會第三四二號ニテ殿原支廳ヘ同件ヲ達シ支廳限リ聞届ケ金員送納ノ部度仕譯書相添ヘシム)

第四節 達第三四號 明治十九年五月廿七日殿原支廳郡區役所ヘ達

諸貸附金返納科目左ノ通相定ム

款	項	目	節
貸附返納金	貸附返納金	舊藩貸	

		勸業貸	
		繰替貸	
		雜種貸	

第五十九章 物品公賣之部

第三百七款 身代限財産公賣ニ關スル事項

第一節 庶第七四號 明治十六年三月廿二日郡區役所へ達

人民身代限ノ節左ニ掲ル諸費ハ財産公賣金ノ内ヨリ引去リ其仕譯書裁判所へ差出スヘシ此旨相達候事

- 一 原被告人等ヲ召喚スル其書狀送達賃
- 一 財産調書及揭示滿期返戻ニ付裁判所へ送達賃
- 一 財産公賣金裁判所へ回送費

第三百八款 抵當財産公賣ニ關スル事項

第一節 乙第四八號 明治十六年四月十日郡區役所へ達

人民相互ノ訴訟上ヨリ抵當物公賣處分裁決ヲ受クルモノアルキハ裁判官ノ照會ニ應シ該公賣ハ郡區長ニ於テ取扱フヘシ此旨相達候事

但事務ノ都合ニ依リ其町村戸長ニ於テ取扱ハシムルモ苦カラズ

第二節 乙第一〇七號

明治十七年六月廿四日 嚴原支廳郡區役所戸長役所へ達

金穀貸借其他諸取引ノ裁判執行ノ際自今權利者ヨリ請願アルニ於テハ隨時吏員長崎始審裁判所ノ印章アル証票ヲ携帶候旨ヲ派出シ抵償財産ヲ差押ヘ公賣處分ニ可及就テハ別紙記載ノ場合ニ於テ戸長又ハ巡查ノ立會ヲ求ムヘキ旨長崎始審裁判所ヨリ申越候條夫々不都合無之様可致此旨相達候事

但於戸長重要ノ器物等預リ中若シ保管費ヲ要スル時ハ前以テ裁判所へ照會致スヘク且調書ノ謄本ヲ本人へ送達スル場合アルキハ其送達賃錢ハ本人ヨリ仕拂ラハシムヘキモノトス

(別紙)

- 一 當廳吏員ヲ派出シテ財産差押ヲ爲ス際其家ノ門戸ノ閉アル時又ハ門戸ヲ開クコトヲ肯ンセサル時ハ吏員其地ノ戸長又ハ巡查ノ立會ヲ求メ其門戸ヲ開ク可シ其物件ニ施シタル鎖鑰ヲ披クコトヲ肯ンセサル時亦全シ但吏員其旨ヲ記載シテ戸長又ハ巡查署名捺印スヘシ
- 一 財産差押ヲ爲ス際貨幣珍器及ヒ權利アル證書類ノ重要ナルモノハ

吏員封印ヲ施シテ戸長役場ニ預ケ置クヘシ

一 船舶又ハ不動産ヲ差押タル時ハ吏員速ニ其旨ヲ戸長ニ通知シ書入
質入ノ簿冊ニ登記ヲ求ム可シ

一 負債者ノ住所ニ於テ差押ヲ爲シタル時ハ其調書ノ謄本一通ヲ本人
ニ渡スヘシ本人ニ渡スヲ得サル時ハ其家族雇人ニ渡ス可シ若シ
是等ノ者在ラカル時ハ戸長ニ渡シ戸長ハ速ニ本人ニ送達スルノ處
分ヲ爲スヘシ

一 差押ノ物件船舶若クハ不動産ニ係ル時ハ請求者其認可狀ヲ戸長ニ
示シ戸長ハ差押ノ旨ヲ書入質入ノ簿冊ニ附記スヘシ

一 吏員入札ヲ受取リタル時ハ戸長ノ立會ニテ直ニ之ヲ開發シ各物件
其高札ノ者ヲ以テ買受人トナシ調書ヲ作り之レニ買受人ノ住所身
分氏名ヲ記載シ戸長及ヒ買受人ト共ニ署名捺印スヘシ裁判又ハ差
押公賣ニ關係セシ裁判所ノ官吏並ニ所屬ノ者及ヒ差押公賣ニ與リ
タル吏員戸長ハ其物件ヲ買受クルヲ得ス

第三百九款

沒收物品及轉倒官庫公賣ニ關スル事項

第一節 達第二二號

明治十九年五月十二日嚴原支廳郡區役所ヘ達

本年(二月)乙第十八號達ヲ廢シ沒收物件及轉倒官庫公賣手續別紙ノ通相
定候條從前裁判所ヨリ引續テ受ケタル犯罪沒收物件ノ内處分未済ニ係
ルモノハ品目員數及物件所在地明記速ニ届出ヘシ

但嚴原支廳ニ於テハ本文手續ニヨリ處分濟届出ヘシ

(別冊)

沒收物件及轉倒官庫公賣手續

第一條 犯罪ニ依リ沒收シタル物件裁判所ヨリ保管ノ依頼アルキハ
適宜ノ場所ヘ保管シ相當ノ取締ヲナスヘシ

第二條 前條保管物件中左ノ各項ニ該當スルモノアルキハ其旨速ニ
届出ヘシ

- 第一項 健康ヲ害スル物質ヲ含有スル飲食物
- 第二項 腐敗ニ屬スルモノ

第三項 保管上多費ヲ要スルモノ

第三條 物件ノ公賣ハ三ヶ月以内取纏メ執行セシムト雖モ府敗ノ恐アルカ保管上多費ヲ要スルモノハ其都度公賣セシムルコトアルヘ

第四條 凡ソ物件ノ公賣ハ入札特賣ノ二法ニヨル其手續左ノ如シ

第一項 入札ヲ執行スルキハ物件所在地ニ於テ揭示場又ハ新聞紙ヲ以テ少クモ七日前ニ年月日時及ヒ場所ヲ指定シタル廣告ヲナスヘシ

但府敗ノ恐アルカ保管上多費ヲ要スル物件ノ公賣ハ便宜短縮スルヲ得

第二項 入札ハ二名以上ニアラザレハ無効トス

第三項 入札ハ開札後違算誤記等ノ故ヲ以テ更正加除スルヲ許サズ

第四項 入札ハ主任官二名以上臨席シ入札人ノ面前ニ於テ開封スヘシ

第五項 入札代價不相當ト見認ムルトキハ取消シ時宜ヲ見計ヒ

尙入札ヲ執行スヘシ

第六項 入札代價同額ナルキハ其入札人ヲシテ更ニ入札セシムヘシ但最前ノ價格ヨリ抵落スルヲ許サズ

第七項 入札面ヘハ入札人ノ在籍ヲ明記スヘシ

第八項 物件ニヨリ入札法執行シ難キトキハ特賣法ニ據リ之ヲ執行スルモノトス

第五條 租税〔地方税〕不納ニ付官沒物件及轉倒官庫ノ公賣ハ經伺ノ上前四條ニヨリ處分スルモノトス

第六條 前條々ニヨリ執行シタル入札ハ取纏メ意見ヲ詳具シ進達スヘシ

第七條 拂下代價ハ本廳ヨリ發スル納額告知書ニヨリ徴収スヘシ但物件ハ代價完納ノ上下附スルモノトス

第六十章 雜之部

第三百十款 祭祀日ニ關スル事項

第一節 甲第七號 明治十年一月廿五日
年中祭日祝日心得方ノ儀左ノ箇條ニ據リ遙拜並拜賀候儀ト可相心得此旨布達候事

明治十一年二月
甲第一二二號
ニテ一項中關
點ノ文字押入

一 祭祀日遙拜式ノ儀ハ縣社或ハ鄉村社等最勝ノ地ヲ撰キ方位ニ就キ遙拜致スヘシ

但其祠官掌ハ八年(四月)式部寮達神社祭式ニ照依シ同年(八月)敎部省第三十四號達書ノ通可相心得

一 祭日祝日トモ國旗掲揚候儀ハ從前ノ通ニ候事

祭日 祝日

一月三日 元始祭 一月一日

一月卅日 孝明天皇祭(遙拜) 二月十一日 紀元節(遙拜)

四月三日 神武天皇祭(遙拜) 十一月三日 天長節

明治十一年二月
甲第一二二號
ニテ紀元節ノ
下箇點ノ文字
押入

九月十七日 神嘗祭(遙拜)

十一月廿三日 新嘗祭

第二節 甲第一二五號 明治十一年十月廿九日

明治十年一月當廳甲第七號ヲ以年中祭日祝日心得方云々及布達置候處右ノ數日ハ全國一般ノ祭祀日ニ付夜間等モ成丈祝賀ノ意ヲ表スヘキハ勿論ニ候條銘々軒先其他適宜點燈候儀ト可心得此旨布達候事

第三百十一款 人民願伺書ニ關スル事項

第一節 甲第一七號 明治十一年二月七日

人民諸願伺書ノ内尋常ノ分ハ日々可及指令候得共縣務多端ノ際自然指令等延滯事實差支候儀モ有之節ハ其旨封書ヲ以直チニ拙者ヘ宛可申立此旨布達候事

第二節 甲第一八六號 明治十三年十二月廿三日

人民諸願伺書ノ儀從來正書ノニ押印差出來候處爾後正副書トモ押印

差出スヘシ此旨布達候事

(明治十四年二月庶第一八三號ヲ以テ庶務課ヨリ郡區長戸長ヨリ差出ス一切ノ書面モ本達ニ依ルベキ旨ヲ通知ス)

第三百十二款 代人ニ關スル事項

第一節 甲第七四號 明治十五年四月七日

他郡區他府縣在籍ニシテ本縣下ニ土地ヲ所有スル者又ハ一郡内ト雖トモ懸隔ノ地ニ於テ土地ヲ所有スル者及ヒ本縣下ニ土地ヲ所有シタル在籍者ニシテ全家他府縣又ハ他郡區他町村ヘ寄留スル者ハ其所在町村戸長受持部内ニ於テ名代人ヲ定メ名代人ハ其町村在籍ニシテ現住者ニ限ル連印ノ上戸長ヘ届置キ納税又ハ公儲金並區町村費ニ係ル一切ノ事務ヲ代理セシムベシ尤名代人ヲ置シモ其戸長受持部内ニ寄留中自ラ其事務ヲ辦理スルハ妨ケナシ此旨布達候事

但十一年當廳甲第百六十八號並十三年當廳甲第四十一號布達ハ自

明治十八年六月
甲第五二號
ニテ附點ノ文
字更正及本文
中土地ノ下家
屋ノ二字ヲ刪
ル

今廢止候事

第二節 庶第一二一八號

明治十九年五月廿四日庶務課ヨリ嚴原支廳各郡區役所(南高來郡役所ヲ除ク)ヘ申進

女子代人ノ儀ニ付其筋ヘ伺置候處今般一家ノ戸主事故有之公私用トモ差支代理ヲ委托スル男子無之趣ヲ以テ婦女(戸主非戸主ナリ)ヘ惣理代人ヲ委托致度旨申出候モノ有之時ハ滿二十歲以上ノモノハ代人タルモ差支無之旨指令有之候間爲心得此段申進候也

第三百十三款 官舎官庫借用ニ關スル事項

第一節 乙第六七號

明治十六年五月廿四日郡區役所戸長役所ヘ達

官舎官庫拜借ノ儀自今別紙書式ニ倣ヒ該町村ニ於テ身元儘ナル保証人貳名以上ノ連署ヲ要シ出願爲致郡區役所ニ於テハ建物見積代價及借地家料(近傍借地家料取調書ヲ屬スヘシ)ノ當否等精細取調進達可致此旨相達候事但從前貸渡ノ分ハ前約期限中据置候儀ト可心得事

(別紙)

官舎拜借願

何郡何町字番號

一官舎一棟

(一筆内數棟ノ建物借用スルハ一棟限列記スヘシ敷地)

此建坪、

(附屬品アラハ此處ニ記載スヘシ)

此拜借料金一ヶ月

此敷地反別、

此拜借料金一ヶ月

拜借料金合、

但何年何月迄何ヶ月限

右官舎何々用使用非故罷ノ爲メ拜借仕度候間御開届被下度尤御開届ノ上

ハ前書ノ料金上納可仕候依之繪圖面並受書相添奉願候也

何郡何町何番地

年號月日

拜借人 何ノ誰印

同

保証人 何ノ誰印

何ノ誰印

戸長 何ノ誰印

縣令宛

官舎拜借ニ付受書

何郡何町字番號

一官舎幾棟

此見積代價、

何程 一番官庫

内、 二番同

、 三番同

此拜借料金一ヶ月何程

(建物敷地双方ノ拜借料金合記ス)

右官舎拜借ノ儀別紙ヲ以奉願候處御開届相成候上ハ左ノ通

〔繪面ニモ必番號記載スヘシ〕

第一條 拜借料金ハ六月十二月ノ兩期ニ官納スヘシ

第二條 萬一自己ノ失火ニ罹リ建物燒亡スルハ見積代價ヲ辨償スヘシ

第三條 公用ノ爲メ期限内返還セシムルハ之ヲ拒ミ或ハ爲メニ生スル損害等ヲ要償スルヲ得ス尤此場合ニ於テハ三ヶ月以内ノ猶豫ヲ與フルコアルヘシ

但拜借料金ハ實際返還ノ月迄収入スルモノトス

第四條 外圍及外回リノ修繕ハ縣廳ヨリ爲スヘシト雖便利ノ爲メ自費ヲ以テ建増或ハ模様替等ヲ爲サントスル時ハ願出許可ヲ受クヘシ尤返還ノ節ハ元形ニ復サシムヘシ

但返還ノ節毀損スル所アルカ又ハ附屬品等不足スルハ辨償セシムヘシ

第五條 満期後引續借ラント欲スル時ハ期限三ヶ月前該事由テ具シ書式ニ倣ヒ更ニ出願スヘシ

第六條 第一條第二條及第三條但書ノ義務拜借人ニ於テ盡シ得サル

時ハ保証人ヨリ引受屹度辨償スヘシ

前條々遵守ノ上拜借仕候儀相違無御座候依テ受書差出置候也

年號月日

何區何村

拜借人 何ノ 離印

同

保証人 何ノ 離印

何ノ 離印

縣令宛

前記受書ノ通相違無御座候也

右戶長 何ノ 離印

第三百十四款 郡長諮問會ニ關スル事項

第一節

丙庶第一二五四號

明治十七年十一月廿四日郡區役所へ達

郡區長諮問會規則左ノ通相定候條此旨相達候事

郡區長諮問會規則

- 第一條 諮問會議ハ縣令ノ命ヲ以テ臨時ニ之ヲ開クモノトス
- 第二條 本會ハ郡區長ヲ以テ會員トス
- 第三條 會議ハ每日午前九時ヨリ午後三時迄トス
但時機ニヨリ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第四條 會長ハ縣令トス尤事故アレハ代理ヲ命スルコトアルヘシ
- 第五條 議案ハ縣令之ヲ下付ス
- 第六條 會議ヲ開クハ會長書記ヲシテ議案ヲ朗讀セシム
- 第七條 總會員過半数出席セザレハ會議ヲ開カス
- 第八條 會員ハ議題ニ對シ審議討論スルコトヲ得
- 第九條 辨明員ハ會員ノ質問ニ對シ答辨スルモノトス
- 第十條 會議ハ過半数ニヨリ之ヲ決ス
- 第十一條 可否同數ナル時ハ會長之ヲ決ス
- 第十二條 會員ノ着席番号ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十三條 發言セシト欲スル者ハ起立シテ會長ト呼ビ其許可ヲ受ク

- 第十四條 議場ハ會長之ヲ整理スルモノトス
- 第十五條 無用ノ發言ト認ムルモノハ會長之ヲ停止セシム
- 第十六條 修正說ハ賛成者アル者ヲ以テ議題トス
但議題トナラサル論說ハ較議スルヲ得ス
- 第十七條 議論數派ニ分レ熟レモ過半数ヲ得サル時ハ會長ノ見込ヲ以テ再議ニ付シ又ハ修正委員ヲ置き之ヲ修正セシムルコトアルヘシ

第三百十五款 所有建物製表届ニ關スル事項

第一節 甲第九一號 明治十八年十一月三十日

人民所有ノ建物家屋倉庫納屋ノ類ハ其略圖ヲ製シ之ニ地所ノ番號借地ハ其地主ノ住家屋所姓名ヲ記スベシノ番戶及建坪ヲ詳記シ來十九年一月限區戶長役所へ可届出此旨布達候事

但本文届出後ハ解家ハ其旨ヲ記シ新築及模様替等ノ分ハ本文ノ通略

圖ヲ製シ其時々届出ヘシ

第三百十六款 法令達施行期限及公布方ニ關スル事項

第一節 達庶第一八號 明治十九年四月十二日北松浦郡長へ訓示

其郡宇久島小値賀島布告布達施行期限ノ義該島地到達ノ翌日ヨリ起算ノトニ相成居候處今般閣令第一号ヲ以テ公文式ヲ定メテ法律命令ハ官報ニ據テ直ニ遵守スルト相成候ニ付宇久島小値賀島所轄戸長役所ニ於テハ速ニ官報ヲ購入シ法律命令施行ノ義ハ右官報到達ノ翌日ヨリ起算スル義ト心得ヘシ此旨訓示候也
但官報島地戸長役所へ到ル迄ノ間ハ從來ノ通施行スヘシ

第二節 長崎縣令第二三號 明治十九年九月十三日

本縣々令及告示達等ハ來ル十月一日ヨリ鎮西日報ニ掲載スルヲ以テ公布式トナシ縣令ハ特ニ施行日限ヲ掲グルモノ、外揮テ發令ノ翌日ヨリ日數七日ヲ以テ施行期限ト定ム

第四十四款第一節明治十九年九月十三日
○六號參照

但島地ハ島廳又ハ郡役所へ縣令到達ノ翌日ヨリ起算ス

第三百十七款 本縣事務規程ニ關スル事項

第一節 達第八五號 明治十九年八月七日嚴原支廳郡區役所へ達

長崎縣事務規程左ノ如ク之ヲ定ム

長崎縣事務規程

第一章 第一部 第二部ニ關スル規程

第一條 本廳第一部ヲ分テ左ノ五課トス

地方費課

外事課

文書課

農商課

庶務課

第二條 本廳第二部ヲ分テ左ノ六課トス

追加改正等數
大ニシテ一々
其酒本ヲ記入
スルニ違アラ
ス依テ現行ノ
儘ヲ掲ク

土木課
兵事課
學務課
監獄課
衛生課
會計課

第三條 各課ニ長一人ヲ置キ屬ヲ以テ之ニ充ツ但監獄課長ハ典獄若シハ副典獄ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 課長ハ部長ノ命ヲ受ケ課務ヲ掌理シ課員ヲ指揮ス其別段ノ規則アルモノハ便宜之ヲ處理ス

第五條 課長ハ課中ノ事務ヲ數係ニ分ツノ必要アルトキハ部長ニ具申シ裁可ヲ受ク可シ

第六條 課員ハ屬及雇員ヲ以テ之ニ充ツ

但監獄課ハ副典獄書記看守長看守副長看守及雇員ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 課員ハ課長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第八條 課長事故アルトキハ上席ノ課員其職務ヲ代理ス

第九條 地方費課ハ主トシテ地方官々制第廿四條第一部第二項第二項ノ事務ヲ掌理ス其節目左ノ如シ

一 縣會水利土功會區町村會ノ會議ニ關スル事

二 地方稅備荒儲蓄金收支議案ニ關スル事

三 地方稅及備荒儲蓄ニ係ル財産ニ關スル事

四 地方稅及備荒儲蓄金支出ニ關スル事

五 賑恤救濟等ニ關スル事

六 地方稅及備荒儲蓄金ノ出納ヲ監査スル事

第十條 外事課ハ地方官々制第廿四條第一部第三項ノ事務ヲ掌理ス其節目左ノ如シ

一 外國人ニ關スル事

但警察事務ニ係ルモノハ此限ニアラズ

二 通辨翻譯ニ關スル事

第十一條 文書課ハ主トシテ地方官々制第廿四條第一部第四項ノ事務ヲ掌理ス其節目左ノ如シ

- 一 文書ノ書寫往復ニ關スル事
- 二 官印縣印ヲ管守スル事
- 三 文書ノ編輯及保存ニ關スル事
- 四 諸辭令及恩給褒賞ニ關スル事
- 五 戶長任免ノ事
- 六 郡區ノ制規ニ關スル事
- 七 儀式ニ關スル事
- 八 建白及請願ニ關スル文書ヲ取扱フ事
- 九 廳中諸例規ニ關スル事
- 十 統計并報告ニ關スル事

第十二條 農商課ハ地方官々制第廿四條第一部第五項ノ事務ヲ掌理ス其節目左ノ如シ

- 一 農商工山林ニ關スル事

二 運輸通信及貯金等ニ關スル事

三 公園植物試驗場及勸工場ヲ管理スル事

四 銀行及銀行類似會社ニ關スル事

第十三條 庶務課ハ地方官々制第廿四條第一部第六項ノ事務ヲ掌理ス其節目左ノ如シ

- 一 社寺ニ關スル事
- 二 地籍ニ關スル事
- 三 戶籍ニ關スル事
- 四 圖書出版及版權ニ關スル事
- 五 他ノ部課ノ主宰ニ關セサル事

第十四條 土木課ハ地方官々制第廿四條第二部第一項ノ事務ヲ掌理ス其節目左ノ如シ

- 一 治水道路ニ關スル事
- 二 營繕ニ關スル事

第十五條 兵事課ハ地方官々制第廿四條第二部第二項ニ關スル事務

ヲ掌理ス其節目左ノ如シ

一 兵事ニ關スル事

二 陸海軍學校ニ關スル事

三 徵發物件ニ關スル事

第十六條 學務課ハ地方官々制第廿四條第二部第三項ノ事務ヲ掌理

ス其節目左ノ如シ

一 教育學問ニ關スル事

二 學校職員任免ノ事

第十七條 監獄課ハ地方官々制第廿四條第二部第四項ノ事務ヲ掌理

ス其節目左ノ如シ

一 監獄ニ關スル事

二 監獄ニ係ル地方税及國庫費中囚徒費ノ會計ニ關スル事

第十八條 衛生課ハ地方官々制第廿四條第二部第五項ニ關スル事務

ヲ掌理ス其節目左ノ如シ

一 衛生病院ニ關スル事

但襟毒病院ハ此限ニ非ス

二 藥物試驗場管理ノ事

第十九條 會計課ハ地方官々制第廿四條第二部第六項ノ事務ヲ掌理

ス其節目左ノ如シ

一 會計及公債証書ニ關スル事

二 官有財産ニ關スル事

三 地方税及備荒儲蓄等現金出納ニ關スル事

第二十條 前條定ムルモノ、外臨時ノ事務ハ特ニ委員ヲ命シテ辦理

セシムルコトアルヘシ

第二章 警察本部ニ關スル規程

第二十一條 警察本部ヲ分テ左ノ三課一係トス

第一 課

第二 課

第三 課

高等警察係

第二十一條 各課ニ長一人ヲ置キ警部ヲ以テ之ニ充テ課員ハ警部警部補巡查及雇員ヲ以テ之ニ充ツ其職務ハ第一章第四條第六條第八條第九條ニ據ル

但高等警察係ニハ係長ヲ置カス警部警部補ヲ以テ係員ニ充ツ

第二十二條 第一課ノ主掌左ノ如シ

- 一 行政警察ニ關スル事
- 二 司法警察ニ關スル事
- 三 内外國人交渉事件ニ關スル事
- 四 警察署規程ニ關スル事
- 五 巡查ノ進退出張其他警察ニ係ル賞罰ニ關スル事

第二十四條 第二課ノ主掌左ノ如シ

- 一 文書ノ書寫往復及編輯保存ニ關スル事
但第一部文書課主管ノモノハ此限ニアラス
- 二 統計報告其他庶務ニ關スル事

第二十五條 第三課ノ主掌左ノ如シ

- 一 警察ニ係ル會計ニ關スル事
- 二 物品ノ保管ニ關スル事

第二十六條 高等警察係ノ主掌左ノ如シ

- 一 集會條例ニ關スル事
- 一 新聞紙條例ニ關スル事
- 一 諸結社講社政會說教場其他宗教ニ關スル事
但農工商ノ結社ニ係ルモノハ此限リニアラス
- 一 銃砲取締及火藥取締爆發物取締ニ關スル事
- 一 贖貨幣取扱ニ關スル事
- 一 石版機械ヲ管守スル事
- 一 前各項ニ掲グル外高等警察一切ニ關スル事

第三章 收稅部ニ關スル規程

第二十七條 收稅部ヲ分ナテ左ノ四課一係トス

賦稅課
徵收課

徵稅費課

檢稅課

文書係

第二十八條 各課ニ長一人ヲ置キ收稅屬ヲ以テ之ニ充テ課員ハ收稅屬及雇員ヲ以テ之ニ充ツ其職務ハ第一章第四條第六條第八條第九條ニ據ル

但文書係ハ長ヲ置カス収稅屬及雇員ヲ以テ係員ニ充ツ

第二十九條 賦稅課ノ主掌左ノ如シ

一 地租雜稅及地方稅賦課ニ關スル事

第三十條 徵收課ノ主掌左ノ如シ

一 地租雜稅及地方稅備荒儲蓄金徵收ニ關スル事

第三十一條 徵稅費課ノ主掌左ノ如シ

一 內國稅徵收費收支ニ關スル事

第三十二條 檢稅課ノ主掌左ノ如シ

一 地租雜稅檢査ニ關スル事

第三十三條 文書係ノ主掌左ノ如シ

一 文書ノ受授書寫住復編輯保存ニ關スル事

二 統計報告其他々課ノ主掌ニ屬セサル一切ノ庶務

第三百十八款 非役有位及有勳者賀表ニ關スル事項

第一節 達第一三〇號 明治十九年十月廿八日對馬島廳那區役所へ達

今般宮內省達第十二號ヲ以テ新年紀元節天長節賀表式被相定候ニ付テハ該達第六項ノ非役正七位以下同勳七等以下ノ者ニシテ本廳ト懸隔ノ地ニ住居シ參賀難致モノハ左ノ書式ニヨリ本廳へ賀表差出サシムヘシ

謹奉賀新年

紀元節

天皇節

何郡何村何番地

年月日 位勳爵苗字名

長崎縣達願集終

明治廿一年五月廿三日印刷
明治廿一年六月二日出版

發行者

長崎縣士族

佐々澄治

長崎縣四彼杵郡上長崎村
二千九百七番戶寄留

印刷者

長崎縣士族

七里真

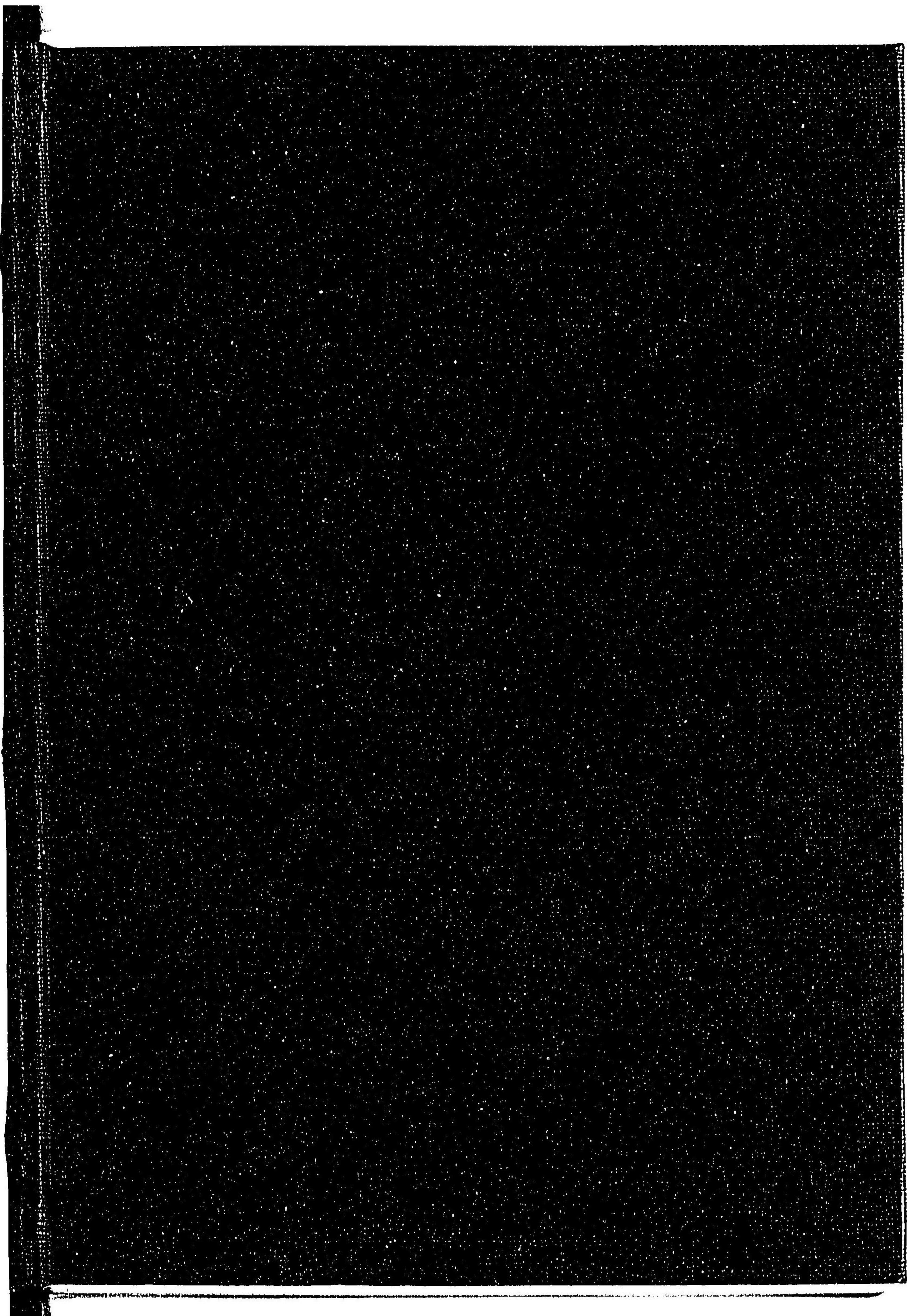
長崎縣長崎區今籠町
拾一番戶

發行所

以文會社

長崎縣長崎區本博多町
一番戶

44+2A-76



禁電子式複写

